

授業科目名	行動変容アプローチ(2300234)		
時間割名	行動変容アプローチ(35205)		
時間割担当	矢野かおり		
実施期	前期	単位数	1 選択
曜日・時限	水・5		

授業の目標・概要

病気には病者の内にある物語という側面がある。この部分が変容しなければ病気は治らない。つまり病気物語の変容が促進されるような種類のコミュニケーションが行われることが治療的な関わり方といえる。病者の行動変容を促進するためのスキルとして、精神医学、臨床心理学、認知心理学など様々な分野からのアプローチを学ぶ。

学習の到達目標

行動が変容するとは、どのようなことかを理解する。様々な問題行動、例えば喫煙行動、飲酒行動、過食、運動不足などはどのような心理学的メカニズムで出現維持されるのか、またそのような問題行動に対して、外側からではなく本人自らが行動を改めるためには、どのようなアドバイス取り組みが出来るのかを、考えることができ。計画を立案、実行できるようにすること。

授業方法・形式

基本的には講義形式で行うが、コミュニケーション・スキルの実習としてロールプレイング形式のワークショップを行う。

授業計画

- 第 1回 行動変容とは何か (医療における行動変容の重要性と意義、家族療法の視点から)
- 第 2回 KJ法と文殊カードを使ったグループワーク
- 第 3回 家族療法から見た行動変容 (もののみかた)
- 第 4回 家族療法から見た行動変容 (もののみかた)
- 第 5回 家族療法の治療技法
- 第 6回 家族療法の治療技法
- 第 7回 家族療法の治療技法
- 第 8回 家族療法の治療技法
- 第 9回 解決志向アプローチ
- 第10回 解決志向アプローチ
- 第11回 ナラティブアプローチ
- 第12回 ナラティブアプローチ
- 第13回 ナラティブアプローチ
- 第14回 ナラティブアプローチ
- 第15回 行動変容アプローチのまとめ

成績評価の基準

レポートと出席点、授業態度を評価点とします。

準備学習・復習及び授業時間外の課題

履修上のアドバイス及び留意点

積極的にワークに参加しようとする意欲を期待しています

教材・教科書

教材・教科書

マンガでわかる家族療法 親子のカウンセリング編 東豊著 日本評論社

参考書

- 1 「講義と演習で学ぶ保健医療行動科学」日本保健医療行動科学会(平成29年出版)